

未来に向かって伸びる鶴嶺の子

鶴小だより 5月号

めざす学校をお話します！！

新年度がスタートして、ひと月が経ちました。今月は、今年度の学校経営についてお話させていただきます。

本校のミッション(鶴嶺小職員の存在意義)は、

未来に向かって伸びる鶴嶺の子

を育てるです。本校の職員は全員、このミッションを遂行するために働きます。そういった子どもたちは、どのような資質・能力を身につけるべきなのかを、あらかじめ明確にしています。

【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【学びに向かう態度・人間性等】
自己及び他者を理解する力	自己を表現する力	粘り強く取り組む力
自己評価できる力	多様な考えを比較対照する力	前向きに考える力
多様性を受容する力	自己選択・自己決定する力	思いやる力
共感する力	未来を想像したり、考えたりする力	よりよい生き方・よりよい社会を求める力
チームワーク力	課題発見・分析する力	自尊感情
コミュニケーション力		主体的に行動できる力
自律する力		

この明らかになった能力のどこに注力するのかを検討して、焦点化し全員で育成に取り組む能力を「ビジョン」(鶴嶺小職員は何をするのか)として表しました。

- 自分で考え学ぶ「かしこい子」
- 仲間とふれあう「やさしい子」

○かしこい子→**自分を知り、表現する力の育成**
○やさしい子→**多様な考えを受容する力の育成**

「自分を知り～」と「多様な考えを～」の部分です。各学年・学級で、この力をつけるために「具体的にどうするか」を考え実践するように、今年度も伝えていきます。

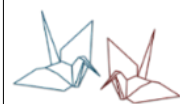
このミッション・ビジョンを整理したことによって、教職員が今めざすべきところが明確にできたと考えています。今年度も、教職員全員が、この同じ資質・能力の育成に向けて教育実践を続けていきます。

それから、鶴嶺の教職員が大切にしている共通の価値観・行動指針(バリュー)も設定しています。目標を現実にするための方法論です。

- 「つながり」を意識し大切にする
- 「エビデンス」を明確にし、教育活動を行う
- 「感謝」を言葉にあらわす(追加)

「つながり」は、ねらって、意図して、つながっていこうという僕ら教職員の姿勢です。学校経営

茅ヶ崎市立鶴嶺小学校
校長 日高 大司郎
令和7年4月30日発行



的にも学級経営的にも、欠くことのできない重要にすべきことという認識を共有しています。

もう一つは、「エビデンス」ですが、根拠と訳されたいと思います。僕ら教職員は、自分たちが願う子どもの姿を実現するために、何をどのようにすべきかという根拠をじっくり考え、「具体的な手立て」をはっきりして教育活動をしていきます。思いや願いを実現するためには、具体的な手立てをもつことが絶対必要だからです。

そして、もう一点、今年度から追加したのがあります。それは、「感謝」を言葉にしようということです。当たり前のことですが、きちんと相手に伝わるように表現できることで、職員同士や子どもたちと、保護者の皆さんと、地域の方々ともつながりがより強くなると考えています。同時に、他者に感謝することは、幸せホルモンの分泌を促し、ウェルビーイングを支えることにもなります。

この3点を、鶴嶺小の働き方として位置づけ、大切にすることで、ミッション実現をめざします。教職員1人1人にとって、この「バリュー」が当たり前になり、無意識でできることをねらっています。

最後に、今年度の重点目標についてお話します。重点目標は、細かい視点毎の目標ではなく、大きくくりでの目標を設定しました。それは・・・

子ども主体の学校づくり

です。

学校は誰が主役ですかと問われたら、間違いなく「子ども」と答える方が多いと思います。しかし、「学校」は主役として子どもたちを扱うことができているでしょうか。ここを、僕ら自身が改めて問い直すことを今年度から始めたいと考えています。細かい項目の重点目標ではありませんが、教職員全員で、学校での営みの一つ一つをこの視点に照らして見ていき、よりよく学校が生まれ変わるための変革を求め続けていきます。

主体である子どもたちへの「どうしたい?！」という問いを合い言葉に、そして、職員同士でも「どうしたい?！」と問い合う中で、まずは「子ども主体」の運動会づくりと、日常の授業を「子ども主体」にシフトすることに注力したいと考えます。

今年度の学校経営について、お話させていただきました。学校でできることには限りがあります。保護者の皆様と手を携えて、一緒に子どもたちを育て参りたいと考えています。

今年度も、どうぞよろしくお願いいたします。